

私の委員会

vol.4

環境問題検討会

製薬協には、12の委員会と6つの専門組織が存在します。このコーナーでは、これらの委員会・専門組織の活動に焦点をあて、ご紹介します。今回は、環境問題検討会です。委員会・専門組織の一覧は [こちら](#)

地球環境の未来を守る、 製薬業界の挑戦

環境問題検討会は、製薬産業における環境問題に全方位的に取り組む委員会です。地球環境保護に関連する諸問題への対応を推進し、環境保護活動の推進を目指しています。具体的には、「カーボンニュートラル行動計画グループ」、「循環型社会形成自主行動計画グループ」、「企画グループ」の3つのグループを中心に活動を進めています。



カーボンニュートラル行動計画グループは、排出量の約9割を占めるスコープ3（サプライチェーン全体）での脱炭素化に、循環型社会形成自主行動計画グループは、プラスチック等の廃棄物に関する資源循環の推進に注力して取り組んでいます。企画グループでは、他業界・他産業の環境への取り組みを共有する等、新たなテーマを探索していく役割を担っています。

2025年は、環境省のモデル事業を推進することを目標に！

製薬産業が抱える環境問題の規模は、実は想像以上に大きなものです。日本のヘルスケア産業が直接排出する温室効果ガス（GHG）は全体の0.6%にとどまりますが、サプライチェーン全体で見ると実に5.6%を占めています。これは、原料調達から製造、流通、コールドチェーン（冷蔵・冷



環境問題検討会

凍での輸送・保管）まで、医薬品が患者さんに届くまでの複雑なサプライチェーンが関わっているためです。特に、生物学的製剤等温度管理が必要な医薬品の増加により、コールドチェーンでのエネルギー消費は年々増大しています。

当検討会では、カーボンニュートラルへの貢献、循環型社会形成への貢献、そして地球環境保護に関する諸問題への認識深化を活動目標として掲げています。2025年は特に、カーボンニュートラル行動計画グループが取り組む、環境省のモデル事業を確実に推進することが重要な目標です。

私たちの活動の根底にあるのは、医薬品の安定供給を支える持続可能な社会の実現です。特に、人々の健康に深刻な影響を及ぼす気候変動といった環境課題の解決に貢献することが、私たちの重要な使命です。

MEMBER'S VOICE

—— 私たちが紹介します！ ——



環境問題検討会 委員長
有馬 覚 さん
ARIMA SATORU

2022年4月から製薬協の委員会活動に参加。2024年5月から委員長を務める。

第一三共 サステナビリティ部 企画グループに所属。



環境問題検討会
企画グループリーダー
原 彰秀 さん
HARA AKIHITO

2022年4月から製薬協の委員会活動に参加。2025年4月から企画グループリーダーを務める。日本新薬 サステナビリティ推進部に所属。



環境問題検討会
カーボンニュートラル行動
計画グループリーダー
光武 裕 さん
MITSUTAKE YUTAKA

2022年4月から製薬協の委員会活動に参加。2022年4月より副委員長、2023年4月からカーボンニュートラル行動計画グループリーダーを務める。アストラゼネカ ジャパンサステナビリティ ディレクター。

私の取り組み

委員会の各メンバーが取り組む内容とその思いをご紹介します。



製薬業界共通の脱炭素モデル事業、始動

環境問題検討会のカーボンニュートラルグループが、環境省の2025年度「バリューチェーン全体での脱炭素化推進モデル事業」に応募し、採択されました。

このモデル事業は、業界単位でのバリューチェーン全体での排出量削減を目的とした支援事業です。本事業には製薬協会会員会社から13社が参加しています。

製薬産業のGHG排出量のうち、約9割がスコープ3に該当します。現在、スコープ3の排出量算定は各社に委ねられており、使用される計算ルールは統一されておりません。そのため、多くの企業が二次データに依存して算定を行っているのが現状です。しかし、二次データでは実際の取引先や製造工程における削減努力が十分に反映されにくく、企業の取り組みの成果が見えづらいという課題があります。

そこで本事業を通じて、製薬業界に特化した共通基盤の整備を進めながら、製薬業

界共通のスコープ3算定・一次データ化基本方針や、サプライヤーとのエンゲージメント方針に関するガイドライン策定に向けた取り組みを進めます。これにより、横比較が可能となり、業界全体の削減努力が可視化され、持続可能なサプライチェーンの実現を目指します。将来的には、製薬協として業界共通のデータベース化を目指し、サプライヤーと製薬企業双方にとって効率的な仕組み作りを進めたいと考えています。

さらには、製薬協として業界共通のデータベースを構築し、持続可能なサプライチェーンの実現を目指します。この取り組みは、製薬協の「産業ビジョン2035」が掲げる重点領域の一つである「Trust」の実現にも貢献するものです。私たちは、この取り組みをモデル事業の一時的な活動に終わらせることなく、毎年レベルアップしていく仕組みとして定着させていきたいと考えています！



万博でのイベントを通じた共創の推進

2025年9月、EXPO2025 大阪・関西万博の英国パビリオンでアストラゼネカ社が主催した「気候変動と健康 未来へのアクション」というイベントに当検討会の有馬委員長がパネリストとして参加しました。本イベントは、当検討会にとっても貴重な機会となりました。

イベントでは、気候変動が人々の健康にどう影響するか、そして医療分野での脱炭素への取り組みについて、議論が交わされました。パネルディスカッションでは、製薬

協だけではなく、環境省や厚生労働省、一般社団法人日本医薬品卸売業連合会、アストラゼネカ、日本医療政策機構と、まさにさまざまな組織から関係者が登壇し、「共創」の重要性を肌で感じることができました。産業の枠を越え、サプライチェーン全体でどのように協力していくかを話し合えたことは大きな収穫です。環境問題への取り組みは一社だけではなく、会社、企業、国、世代を越えて共創していくことが重要です。



「環境問題検討会」の活動内容は
こちらからご確認ください！

